

MRI 検査手順

フルボディスクャンタイプ

スキャン 条件1

植込みリード：Tendril MRI™ (モデル番号：LPA1200M) 

使用ペースメーカー：

Accent MRI RF, Accent MRI (モデル番号：PM2224, PM1224, PM1124)
Assurity MRI (モデル番号：PM2272, PM1272)
Endurity MRI (モデル番号：PM1172)



スキャン 条件2

植込みリード：IsoFlex™ Optim™ (モデル番号：1944, 1948)
Tendril™ STS (モデル番号：2088TC) 

使用ペースメーカー：

Accent MRI RF, Accent MRI (モデル番号：PM2224, PM1224, PM1124)



スキャン 条件3

植込みリード：IsoFlex™ Optim™ (モデル番号：1944, 1948)
Tendril™ STS (モデル番号：2088TC) 

使用ペースメーカー：

Assurity MRI (モデル番号：PM2272, PM1272)
Endurity MRI (モデル番号：PM1172)



事前確認

- ・条件付き MRI 対応カード確認 (緑色のカード)
- ・本体とリードの両方が MRI 対応であること・遺残リード、その他のデバイス、アダプターなどが植え込まれていないこと
- ・リード植込み後 6 週間経過していること
- ・リード抵抗が限度値内であること
- ・出力 5.0V/1.0ms または 7.5V/1.0ms で横隔膜刺激がないこと
- ・閾値が 2.5V、パルス幅 0.5ms 以下であること
- ・リード損傷の疑いが無いこと
- ・平熱で、体温調整に異常がないこと
- ・検査オーダー先の MR 装置が 1.5T トンネル型であること
- ・検査当日は仰臥位(腕の位置は体の横とする)で撮像が行えること

- ・条件付き MRI 対応カード確認 (緑色のカード)
- ・本体とリードの両方が MRI 対応であること・遺残リード、その他のデバイス、アダプターなどが植え込まれていないこと
- ・リード植込み後 6 週間経過していること
- ・リード抵抗が限度値内であること
- ・出力 5.0V/1.0ms または 7.5V/1.0ms で横隔膜刺激がないこと
- ・閾値が 2.5V、パルス幅 0.5ms 以下であること
- ・リード損傷の疑いが無いこと
- ・平熱で、体温調整に異常がないこと
- ・検査オーダー先の MR 装置が 1.5T トンネル型であること
- ・検査当日は仰臥位(腕の位置は体の横とする)で撮像が行えること

- ・条件付き MRI 対応カード確認 (緑色のカード)
- ・本体とリードの両方が MRI 対応であること・遺残リード、その他のデバイス、アダプターなどが植え込まれていないこと
- ・リード植込み後 6 週間経過していること
- ・リード抵抗が限度値内であること
- ・出力 5.0V/1.0ms または 7.5V/1.0ms で横隔膜刺激がないこと
- ・閾値が 2.5V、パルス幅 0.5ms 以下であること
- ・リード損傷の疑いが無いこと
- ・平熱で、体温調整に異常がないこと
- ・検査オーダー先の MRI 装置が 1.5T/3.0T トンネル型であること
- ・検査当日は仰臥位(腕の位置は体の横とする)で撮像が行えること

MRI 検査直前

- ・プログラマで MRI モードと MRI 基本レートのプログラミングする
- ・1.5T のトンネル型 MR 装置であること
- ・検査は仰臥位(腕の位置は体の横とする)
- ・一軸あたりの最大勾配スルーレートが 200T/m/s 以下であること
- ・全身 SAR4.0W/kg 以下、頭部 SAR3.2W/kg 未満であること
- ・ペースメーカー植込み部位にローカル送信専用コイルもしくはローカル送受信コイルを配置しないこと
- ・スキャン中は体外式除細動器をえるよう準備すること
- ・パーマナントなペースメーカー設定を記録する
- ・ペースメーカー管理医の指示に従い、プログラマで MRI 設定を有効化する
- ・MRI 設定有効化後のペースメーカー設定を記録する

- ・プログラマで MRI モードと MRI 基本レートのプログラミングする
- ・1.5T のトンネル型 MR 装置であること
- ・検査は仰臥位(腕の位置は体の横とする)
- ・一軸あたりの最大勾配スルーレートが 200T/m/s 以下であること
- ・全身 SAR2.0W/kg 以下、頭部 SAR3.2W/kg 未満であること
- ・ローカル送信専用コイル又はローカル送受信コイルは頭部、下肢(ただし臀部を除く)、手首に限ること
- ・スキャン中は体外式除細動器をえるよう準備すること
- ・パーマナントなペースメーカー設定を記録する
- ・ペースメーカー管理医の指示に従い、プログラマで MRI 設定を有効化する
- ・MRI 設定有効化後のペースメーカー設定を記録する

- ・プログラマで MRI モードと MRI 基本レートのプログラミングする
- ・1.5T または 3.0T* のトンネル型 MR 装置であること
- ・検査は仰臥位(腕の位置は体の横とする)
- ・一軸あたりの最大勾配スルーレートが 200T/m/s 以下であること
- ・全身 SAR2.0W/kg 以下、頭部 SAR3.2W/kg 未満であること
- ・1.5T で撮像する場合は、ローカル送信専用コイル又はローカル送受信コイルは頭部、下肢(ただし臀部を除く)、手首に限ること、3T で撮像する場合はローカルコイルは受信専用に限ること
- ・スキャン中は体外式除細動器をえるよう準備すること
- ・パーマナントなペースメーカー設定を記録する
- ・ペースメーカー管理医の指示に従い、プログラマで MRI 設定を有効化する
- ・MRI 設定有効化後のペースメーカー設定を記録する
- ・3T で撮像する場合の RF 励起はクワドラチャ(QD)/円偏波(CP)モードのみ使用すること

*Accent MRI (PM2224, PM1224, PM1124) は 3.0T で撮像が行えません。1.5T の MRI 装置で検査して下さい。

MRI 検査中

MRI 検査時は、心電図、パルス酸素濃度計または非侵襲的血压測定のうちいずれかを使用し、血行動態のモニタリングを行う必要がある

MRI 検査直後

- ・プログラマで MRI 設定を無効化する
- ・プログラマでペースメーカーチェック結果・設定を記録する
- ・プログラマでペースメーカーチェックを実施する
- ・ペースメーカー管理医により、ペースメーカーが MRI 検査前に戻っていること、調整が必要ないことを最終確認する



患者様ごとの詳細な撮像条件につきましては、シリアル検索システムでご確認下さい
<https://www.cardiovascular.abbott/jp/ja/mri-verification.html>